



双葉東小学校だより

令和7年2月3日 文責 学校長 窪田 正幸

暦の上ではもうすぐ春・・・



2月になりました。2月は、俳句の季語で表すと、「残雪」「流水」など寒さを表しているものもありますが、「立春」「初春」「早春」「梅」など春の訪れを感じられるような言葉もあります。また、2月は旧暦の月名だと「如月（きさらぎ）」といいます。如月の語源には、寒さのために着物を重ねる「衣更着」が元になっているという説もあれば、春めいて陽気が盛んになる時季を意味する「気更来」、暖かい日差しに向かい草木が生えるという意味の「生更木」など様々な由来があるそうです。意味はそれぞれに異なりますが、厳しい冬を超えて、春の訪れを感じる季節だということがわかりますね。静かな気持ちで自然と向き合いながら、草木も動物たちも、そして私たちも、目覚めの季節への準備を始めるタイミングかもしれません。

さて、学校ではどの学年も1年間のまとめに入ります。学習面、生活面等において、一人一人の子どもの成長を確かめながら、進級、進学に向けての希望を大きく膨らませることができるよう指導して参りたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様のあたたかいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

豊かな人間性を育む①

学習指導要領では、生きる力を「知・徳・体のバランスのとれた力」と表現しています。知・徳・体とは、具体的には、「知＝確かな学力、徳＝豊かな人間性、体＝健康・体力」を表しています。一方、双葉東小の学校教育目標は、「やさしく かしこく たくましく」。つまり「徳・知・体」の順番で掲げられています。このことから、本校は「豊かな人間性を育む」ことを大切にしていることをご理解いただけたと思います。

ここでは、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育むために本校で取り組んでいる事柄の一例を、2回に分けて紹介します。

全校集会「ちょっといい話」

全校集会の中で、日常の学校生活の中にある子供たちの頑張っている場面、心あたたまる場面、感心させられた場面等を取り上げて、子供たちに伝えています。価値の押しつけをするのではなく、子供の心を揺さぶることで、自発的に考え行動できるようにと、長く続いている活動です。

先日の『ちょっといい話』では、本校の子供が、道に落ちていた鍵を拾って近くのお店に届けたところ、鍵の落とし主から学校にお礼の電話があったという出来事を通じて、落とし主の人のことを思って行動する優しい気持ちに、心があたたかくなったことを伝えました。

「こうしなさい」ではなく、子供が自ら考え、気づき、行動できるよう、内容や伝え方も工夫しています。

学校生活の中では、心がほっこりする場面にたくさん出会いますし、逆に「どうして・・・」と思うような行動を目にすることもあります。落とし物でいえば、校舎内で落としたものが、学校の外で見つかったということもありました。誰かが持ち出してしまったようです。落とした子はとても困っていましたし、心配もしていました。

「落とし物は必ず届ける」という行動は、正しい道徳性を基盤としていますが、同時に相手の立場に立って考えるという人間性にもつながってきます。日常生活の中で、大人が見本となる行動をすること、相手の気持ちを考えさせること、できた時は褒めること等を通して、相手を思いやる心、考え行動できる力を育てていきたいですね。